

2023年度事業計画

岡山商科大学専門学校

1 現状と課題

(1) 在学生数推移

2023年3月16日現在

	2021年度		2022年度		2023年度 (見込)	
	1年	2年	1年	2年	1年	2年
トラベル観光学科	3	6	3	2	1	3
まんがネットショップ学科	3	1	4	3	0	4
事務職養成学科	3	8	6	3	14	6
国際総合ビジネス学科(留学生)	56	61	38(5)	47	26(5)	31
キャリアアップ学科	0		0		0	
キャリア専攻学科(留学生)	10		0		0	
学年合計	75	76	51(5)	55	41(5)	44
合 計	151		106(5)		85(5)	

各年度数字は5月1日現在 () は10月入学で内数

コロナの影響により香川県・愛媛県等からの県外専門学校への進学者数の減少や、日本語学校等を卒業する留学生の減少により在学生が減っている。しかし本校に入学する留学生の向学心はコロナ以前より高く、退学や除籍により途中で学校を去る学生は激減している。ちなみに2022年度は退学1名、除籍5名であり6%を切っている。留学生の減少は2023年度まで継続し2024年度はV字回復が見込まれる。また昨年から導入した附属高校対象の新たな指定校制度も2年目になり志願者も増えた。

この状況から今でこそ取り組めることがあると考え、本校教育の質の向上に取り組むことにした。これには、教育システムの向上・教員個々の教育力向上・能力別クラス編成の導入を柱として取り組み、在学生が本校教育に魅力を感じることを目標とする。

また課題として積み残している、新たな「学校安定化推進計画」については、2023度中に作成する。

(2) 学科について

① トラベル観光学科

2年前からコロナの影響により志願者が大幅に減少している状況であり、オープンキャンパスへの応募者数もまだ回復していない。全国旅行支援で日本国内の旅行者は回復しつつあるが、政府からの補助金が終わってからコロナ以前の旅の姿に戻り、子息が旅行業を仕事とすることに保護者の抵抗感がなくなることを望んでいる。

② まんが・ネットショップ学科

コロナの影響の中でも何とか受験生を確保していたが、2022年度は志願者が0名になった。このことから2024年度からの募集を停止し新設学科を設置する。2023年は学習内容を「2D・3D・動画を活用したマーケティングを学習する」として新たな学科の準備をする。対象は商業系列の高校だけでなく、工業系列のデザイン科が設置されている高校や普通科にも受験生の開拓を進める。

③ 事務職養成学科

学校訪問等では「岡山商科大学3年生に編入できる唯一の専門学校」を大きな特色として説明している。その効果として高校の先生方に大学の教養課程の代わりに専門学校で資格取得をして、岡山商科大学でより高度の学修を修めることが可能である専門学校であることが徐々に理解されるようになって来ている。このことから事務職養成学科の志願者が増加したと考えている。

④ 国際総合ビジネス学科

コロナの影響は今年度の入試まで続いたが、2021年10月に想定した入学生20名と同数に合格通知を出すことができた。国別ではベトナム・バングラデシュ・ネパール・パキスタン・インドネシアからの留学生で日本語能力も高く、強い向学心を感じられる学生達である。出身学校は日本語学校だけでなく、他大学の別科や他の専門学校を中退しての志願者も多い。「進路に強い・面倒見が良い」等の口コミにより志望を決めた学生が多い。

⑤ キャリア専攻学科

昨年に引き続き国際総合ビジネス学科からキャリア専攻学科を志望する学生は皆無であった。これは進路意識が高い学生が多く、また全国的な人手不足から企業の求人意欲の高まりもあり、国際総合ビジネス学科の多くの卒業生が就職を決めて卒業する現状であるためである。募集停止を含め大きな改革の必要を感じている。

(3) 施設設備について

2022年度に予定していたが、他への出費で出来なかった1教室のエアコン更新を行う。これによりエアコン修理への支出の心配が無くなるだけでなく節電効果も期待できる。

またコロナによる影響から小中高校へのタブレット等の授業導入が進んだことなどの学習環境の変化から、本校においても学生用の校内無線LANの整備が急がれる。

2 事業計画

(1) キャリア教育（岡山商科大学との連携）

2022年度は早い時期に岡山商科大学入試課から大学の説明をしてもらい、また大学でのオープンキャンパスも実施し、大学進学を考えている学生が大学生活をイメージしやすくなった。2023年度もよりキャリアアップへの自覚を高めるための行事を実施する。

(2) 高校との連携

① 附属高校との連携

附属高校に特化したオープンキャンパスを実施し、学校法人吉備学園間での進学の有利性を伝える。また出前授業も実施する。

② 商業系高等学校（総合学科を含む）との連携

商業の科目として「観光ビジネス」が2022年度の高校入学生から年次進行で導入されている。「観光ビジネス」の目的や内容を理解した高校生が、本校トラベル観光学科での学習につなげることで、より実践的な力を身に付けることが出来ることを伝える。

(3) 広報活動（入学者確保）

① 高等学校には岡山商科大学3年に編入学できる唯一の専門学校であることを広報の柱として活動を進める。

（岡山商科大学3年への進学実績：2020年度8名・2021年度6名・2022年度5名）

- ② 留学生の入学試験の面接で、本校は卒業予定者の進路決定において「面倒見が良く、卒業後の進学・就職に強い専門学校である」との回答が多い。このことは「口コミ」による学校評判の拡散を実感することであり、今後もこのような「口コミ」が続くような教育活動を続ける。
- ③ 日本人学生への学校の知名度が低いため、まず学校名の浸透を図る取り組みを進める。県立図書館での雑誌広告・アリオ倉敷や附属高校前のデジタルサイネージにより、幅広い年齢層に広報を進める。またインスタグラムを活用して、地域（例：岡山・香川・松山市以外の愛媛・米子市周辺と松江市周辺など重点地域として定める）と年齢（16才～24才）を絞って広告する。
- ④ 資格取得への門戸を岡山商科大学学生や市民・県民にも開く。広報を目的とした取り組みとして実施する。
- (4) 情報公開
 - ① 「大学等における修学の支援に関する法律による対象機関」として必要な情報公開を継続する。
 - ② 学校関係者評価を継続し、委員の評価結果に基づく改善を進める。2023年度も、引き続き地域貢献活動の取組を進める。
- (5) 教育の質向上
 - ① 目的を理解しやすい教育課程表を整備する。
 - ② 「COS学習スタンダード」を活用してわかりやすい授業の展開を目指す。
 - ③ 留学生の日本語能力試験上級合格を目的に能力別クラス編成を実施する。
 - ④ 資格取得についての詳細の把握と学生への啓発を進める。
 - ⑤ ICTを活用したわかりやすい授業を推進する。
 - ⑥ 授業評価により、授業の質の向上を図る。
- (6) 人事管理
 - ① 新採用の教職員に新採用研修を実施し、「学校法人吉備学園を構成する教職員の一人である」ことの自覚を促す。
 - ② 自己目標シートを活用した目標管理により、具体的な行動に移行しやすくする。
 - ③ より組織的な学校運営ができるよう、校務分掌や担任業務、ビザ管理について組織を明確にし、管理系統やタイムテーブル、学生への指示の方法を明確にする。
 - ④ 少人数の利点を活かし、明るく風通しの良い職場環境を構築する。